

国

語

( 解答番号 )

1

}

39

(

国 語

試験時間60分

〔注 意〕

1. この問題冊子は指示があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号が正しく記入・マークされていない場合は0点となる。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にマークすること。例えば、問題文中に 



 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように **解答番号10の解答記入欄の③にマーク**すること。正しくマークされていない場合は採点できないことがある。

(例)

解答番号	解答記入欄 (マーク)									
10	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

4. 問題冊子の各ページの余白は自由に使用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 試験終了後、解答用紙は通路側に置くこと。なお、問題冊子は持ち帰ること。

## 〈マーク式についての注意〉

1. 機械が読み取って採点するので、折り曲げたり汚したりしないこと。
2. マークはHBの鉛筆で枠の中を濃く塗りつぶすこと。
3. 1つのマーク欄には1つしかマークしないこと。
4. 訂正はプラスチック消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除くこと。
5. 所定欄以外には何も書かないこと。

問題一 Aの文章は、横溝正史の作品「獄門島」のあらすじを記したものです。また、Bの文章はこの作品を論じたものです。これをふまえて、後の各問に答えなさい。

【A】

横溝正史の「獄門島」は、一九四七年から四八年にかけて連載された推理小説である。主人公の金田一耕助は復員した直後に、戦地で亡くなった戦友の頼みを受けて獄門島を訪れる。獄門島は伝統的な因習の残る離島で、そこにある戦友の実家の鬼頭家は、本家と分家が争う網元であった。登場人物の鬼頭早苗は、亡くなった戦友のいとこで、分家の娘であるが、本家（本鬼頭）の切り盛りを任されていた。金田一が島に滞在中に、戦友の妹で鬼頭の本家を継ぐはずだった三人の娘の連続殺人事件が起こる。

【B】

戦争という「移動」の時代が終わり、尋常ならざる封建遺制を残存させてきたこの島にも、ようやく近代化の波が訪れる。――「獄門島」は、探偵金田一耕助が最後に解き明かした事件の他に、もう一つの物語を埋め込んでいる。するとさしずめ金田一は近代の使者ということになるわけで、その彼が「アメリカ帰り」と設定されているのはいささか出来すぎている気がしないでもないが、それはともかくとしても、「獄門島」が描いた連続殺人事件のコンテクストを説明する枠組みに、表象の誇張・凝縮・転移・局所化等、ある種の心理的な機制との類似を指摘することは十分に可能と思われる。

探偵小説は探偵が市民正義を回復する物語だという言い方がある。読者からすれば、探偵小説は市民社会の イ と ロ を想像的に再認することができるジャンルでもあるわけだ。だが探偵は、犯人を逮捕することも法による裁きを下すこともできないのだから、探偵物語には警察制度と司法制度の円滑な作動が不可欠の前提となる。しかし、金田一の「帰還」が語られた時代は、そのいずれもが戦前・戦時からの連続性を問われ、システムとしての安定性を欠いていたはずである。

また、作中で金田一や人物たちは、a現場に取り残された死体の異様に驚くが、必ずしもそれは「戦場の現代的な大量死の体験」が「もはや過去のものかもしれない尊厳ある、固有の人間の死を、フィクションとして復権させる」b（笠井潔）ためとは言いきれない。作中で殺害される三人の女性は「死なせたほうが本人たちのためにも慈悲、世間のためにもならうと思うた」と語られていて、彼女たちの死は、かけがえない個別的な死として悼まれているわけではまったくくない。それに、そもそも金田一は、多数の傷病兵を抱え、食糧も尽きた中で「二年間の地獄の苦しみ」を嘗めたというニューギニアの戦場体験者だったはずである。作中でも彼は、「救年間の前線生活」の中で、「爆死」や「病死」など、「いやといふほど、人間の死ぬところを見て来た」と紹介されてはいなかったか。ならば、彼は戦場で、もつと悲惨で、酷たらしく、思わず眼を背けたくなるような死とくり返し出会っていたのではなかったか。そのことは、同時代にこの物語を手にした読者たちが、一番よく知っていたはずである。

すなわち「獄門島」の物語世界は、同時代の読者に、「もはや戦時ではない」という幻想を、あるいは安定した日常の回復という願望を、読書行為を通じて想像的に先取り、演出する装置としても機能したのではないか。逆言すれば、この物語は、家父長制と「封建制」とが強固に結び付いた価値意識を、正気を欠いた「特種」な場所の「特種」な人々の問題というかたちで局所化し、過去の遺物として相対化し、想像的に乗り越えることを可能にするb「イデオロギー装置」でもあったのではないか。鬼頭早苗は「島も革命ならば日本も革命」と語ったが、考えてみればこの言表は奇妙である。本来なら「日本も革命ならば島も革命」と語られるべきだからである。この論理のc「デントウ」は、早苗の口を借りて語られた「獄門島」の「革命」が、あくまで先取られたフィクションでしかなかったことを象徴的に表している。

この問題をもう少し掘り下げてみよう。「獄門島」のイデオロギー的な機能を検討する上では、映画研究者の斉藤綾子が提示したc「ドミナント・フィクション」というコンセプトが参考になる。斉藤は、木下恵介の映画のうち、「涙の三部作」――「二十四の瞳」「野菊の如き君なりき」（一九五五）「喜びも悲しみも幾歳月」（一九五七）――の受容には、「敗戦という日本が体験した「歴史的外傷」と喪失体験が深くかかわっていた」という問題意識にもとづき、ジャック・ランシエールの着想を

フェミニズム批評の観点から展開させたカジヤ・シルヴァマンの所説を参照する。斉藤の議論をわたしなりに敷衍すれば、「ドミナント・フィクション」とは、社会的な合意点をイメージ化して提供する表象様式であり、社会の構成員の側もそのイメージに同一化できるものである。そしてそれは、各種の文化的表象を操作することを通じて、社会の一体性とアイデンティティを維持し、社会の同一性という表象を再生産する役割を担っている。とりわけ「家父長制社会の中心をなすイデオロギイ的信念を指し示し、まず第一に家族の「一体」と能力のある「無傷の」男性主体にその確信を見いだし、「その確信において、階級とか人種といった差異でさえも、一つの共有された「物語機構」<sup>(a)</sup>によって作り出された現実として包含してしまふ」ものとしてある。

この考え方を踏まえれば、<sup>(d)</sup>「獄門島」の物語の枠組みは、次のように解釈できることになる。戦争によって激化した島内部の矛盾が悲惨な連続殺人事件というかたちで露呈したが、そのような島の危機が、近代化を受容することによって乗り越えられていく、というものだ。つまり、島の社会が「歴史的外傷」としての「喪失」から立ち直る物語として理解することができるのだ。

だとすれば、早苗があくまで「本鬼頭」という家の連続性を大切にする人物と設定されたことのイデオロギイ的な意味も見てくる。彼女は、外来者である金田一の誘いには乗らず、あくまで島に「復員」した男から「婿」を選ぶ、と口にする。

「島」の新たな家長<sup>(b)</sup>主体の座は空位となっていて、そのポジションは、共同体の内部の男性、それも一連の事件とは関係ないという意味で無垢な男性（しかも元「兵士」の男性）によって再占有される。まさに、象徴的な意味で「無傷の」男性主体<sup>(c)</sup>が、「獄門島」という社会の同一性を担保することになるわけだ。

それだけではない。本稿の議論にとって「ドミナント・フィクション」というコンセプトが重要なのは、上記のような「獄門島」の物語の枠組みが、<sup>(c)</sup>「同時代の支配的な言説のそれと相同的であることを検討できるからである。「獄門島」が依拠した語りの論理は、一般に「戦後『啓蒙』」と総称される言説の系と相似的なのである。「戦時の超国家主義に従属してきた諸個人がしつかり自立した「主体」として戦後に生まれ変わる（中野敏男）」という枠組みの共通性だけではない。より重要なのは、

「戦後啓蒙」の議論が依拠した語りの枠組みと「文化的表象」の配置の問題、つまりは文法と修辭の問題である。

まず銘記したいこととして、一九四七年の川島武宜が「結婚は昔からいまにいたるまで」部落の内部でのみ行われ、他部落の者と結婚はまったく例外的」という離島の漁村を、「日本封建性のアジア的性質」を例証する事例として参照していたという事実がある（「日本封建性のアジア的性質——奴隸制の一形態としての養子——」『中央公論』一九四七年四月）。「部落全体が一つの血縁団体」であり、「親族の結合にたいする執着が強」とする川島の漁村表象と、「獄門島」のそれとの近似ぶりを確認しておきたい。

直接的な類似・参照関係だけではない。近過去の記憶を切断了上で、日本社会にいまなお残存する<sup>(g)</sup>「封建性」「封建遺制」の変革が行われる、という物語の展開に留意したい。「現代日本の歴史的な課題が、今までの日本に支配的であった封建的、またそれと結びついた帝国主義的な、政治的・経済的・文化的な勢力を一掃することにあるという点においては、わが国、進歩的、知識人の見解はまったく一致している」と語る、蔵原惟人のようなマルクス主義者の認識だけの問題ではない（「文化革命と知識層の任務」「世界」一九四七年六月。傍点は引用者、以下同じ）。例えば、「自由なる主体的意識」の欠如と「上からの圧迫感」の下位者への移譲というあり方を「近代日本が封建社会から受継いだ最も大きな「遺産」の一つ」と意味づける丸山真男が、「八・一五の日」を「超国家主義の全体系の基盤たる国体<sup>(h)</sup>がその絶対性を喪失し今や始めて自由なる主体となつた日本国民にその運命を委ねた日でもあつた」（「超国家主義の論理と心理」「世界」一九四六年五月）と書きつけたことに典型的に<sup>(2)</sup>「カンシユ」されるが、このような未来に向かうプロジェクトを語る言葉は、すでに戦時の「悪夢」から解放され、過去を切斷することを通じて覚醒した、啓蒙された主体のイメージを析出していたからだ。ウェーバーを引きつつ、日本社会に広汎に指摘できる「非合理的な」<sup>(注)</sup>マーギッシュな心理的束縛から民衆を解放し、民衆の間に「近代的人間類型」を創造することこそ、「吾国の平和的再建」に不可欠だと述べる大塚久雄の見解にも同じことが言える（「魔術からの解放——近代的人間類型の創造——」『世界』一九四六年十二月）。

（五味潤典嗣『「敗け方」の問題』による。一部改変）

〔注〕マーギッシュ…ドイツ語で「魔術的」の意

問一 傍線部(1)、(2)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

- ①
- ②
- ③
- ④

(1) ①

- ① テンブ書類を確認する
- ② 絵をテンジする
- ③ キテンを利かす
- ④ 実弾をソウテンする

テン  
トウ

②

- ① セットウで捕まる
- ② 店がトウサンする
- ③ セントウ態勢をとる
- ④ 情報をトウセイする

(2) ③

- ① 病人をカンゴする
- ② カントクを務める
- ③ 本をカンコウする
- ④ 課題をカンスイする

カン  
シュ

④

- ① シユミで切手を集める
- ② 野球のシュビ位置
- ③ 柔道のシュギョウに出る
- ④ 敵の陣地をダツシュする

問二 空所イ、ロに入る言葉として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

- ⑤
- ⑥

イ ⑤

- ① 起源
- ② 自由
- ③ 本質
- ④ 常識
- ⑤ 秩序

ロ ⑥

- ① 急進性
- ② 安定性
- ③ 公開性
- ④ 流動性
- ⑤ 完全性

問三 波線部(a)に関して、登場人物たちがこのように反応した背景を筆者が説明したものと最も適切なものを、次の

- ①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

⑦

- ① 戦場での爆死や病死の様子が思い出させられた。
- ② 殺害方法があまりに残虐で現場が血まみれであった。
- ③ 尊厳のある固有の人間の生命が奪われてしまった。
- ④ 戦後、安定したはずの日常が幻想であったと思い知らされた。
- ⑤ 探偵が事件を解決することの限界を感じた。

問四 波線部 (b) の果たす機能として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

8

- ① 戦中の制度や価値観が実は戦後もまだ続いていると気づかせること
- ② 「もはや戦時ではない」という幻想から解き放つこと
- ③ 家父長制と「封建制」が結び付いた価値意識を信じ込ませること
- ④ 「特種」な場所の「特種」な人々だけが安定した日常を回復できると思わせること
- ⑤ 戦前の制度や価値観はもう過去のものとなったと思込ませること

問五 波線部 (c) の説明として適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

9

- ① 社会の同一性は思い込みや幻想にすぎないのだという共通理解
- ② 社会の構成員の一致した価値観をイメージとして提供するもの
- ③ 社会の構成員間にある諸差異を包み込むイデオロギー的信念
- ④ 社会に一体のものとしてのアイデンティティを保持させるもの
- ⑤ 社会の構成員が自分をそこに同一化できる対象としての表象様式

問六

波線部 (d) に関して、その枠組みの中で登場人物の果たしている役割の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

10

- ① 鬼頭早苗は親に決められた結婚相手を受け入れて島の伝統を守ろうとしている。
- ② 金田一耕助は啓蒙思想でもって島を改革しようと努めている。
- ③ 金田一耕助は島に迫る近代化を象徴する存在となっている。
- ④ 鬼頭早苗は金田一耕助の誘いを拒絶することで自立した個人になろうとしている。
- ⑤ 鬼頭早苗は伝統を体現するがゆえに、よそ者である金田一耕助を嫌悪している。

問七 波線部 (e) の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

11

- ① 中野敏男は、戦時の超国家主義に従属してきた諸個人が、離島においてこそしっかりと自立した「主体」として戦後に生まれ変わった、と述べた。
- ② 川島武宜は、結婚が部落の内部で行われるという昔からの慣習は、離島の漁村にのみ残っており、それが封建性の名残である、と述べた。
- ③ 蔵原惟人は、これまで支配的であった封建的な勢力を、帝国主義的な勢力によって一掃することに現代日本の課題がある、と述べた。
- ④ 丸山真男は、自由な主体となった日本国民が、敗戦の八月一五日に超国家主義の基盤たる国体の絶対性を廃棄したのには、そうなる運命であった、と述べた。
- ⑤ 大塚久雄は、日本社会に蔓延する非合理的でマーギッシュ（魔術的）な心理的束縛から民衆を解放し、近代的人間となることが大事だ、と述べた。

問八 波線部 (f) の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

12

- ① 他人の無知を嘲笑うこと
- ② 天から啓示を授かること
- ③ 古き良き伝統から学ぶこと
- ④ 人々に正しい知識を与えること
- ⑤ 積極的に自ら学習すること

問九 波線部 (g) に関して、本文に即した説明として適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えな

さい。

13

- ① 自分の目上の者からの圧力を目下の者に移し替えること
- ② 何が共同体の利益なのかを各人が判断し自ら行動すること
- ③ 親族関係が濃密で、強固な関係で結びついていること
- ④ 個々人が自由な主体であるという意識が欠如していること
- ⑤ 部落全体が一つの血縁集団であるかのようにみなすこと

問十

本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

14

- ① 探偵小説としての「獄門島」は、警察制度と司法制度を取り入れることをしていないが、それは島の社会が国家に依存せず自立していることを象徴している。
- ② 鬼頭早苗の「島も革命ならば日本も革命」という台詞は、本来「日本も革命ならば島も革命」と言うべきところだったが、島の危機を乗り切るために先走った早苗の気持ちを小説の読者に伝えている。
- ③ 「獄門島」の物語世界は、暴力性や保守性を局所化し、またそれを乗り越えていく過程を読ませることで、読者に社会の近代化を先取りするかたちで見せている。
- ④ 島に「復員」した男性が担わせられている意味については、殺人事件について無罪だというアリバイがあるということが決定的に重要である。
- ⑤ 「獄門島」の物語の展開は、過去の記憶を切り離すことを通じて、封建制から完全に解き放たれ、真の自由を取り戻す、というものである。

問題二 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

啓蒙の時代とは打って変わり、十九世紀半ば以降約一世紀にわたっては「公共的なもの」に対する概して否定的ないし消極的な評価が主流となる。「公共的なもの」は不特定多数の人びとが行使する水平的な権力作用と結びつけられる。たとえばゼーレン・キルケゴールは「水平化の圧力」を指摘し、マルティン・ハイデガーは「世人」の特徴を非本来性、凡庸性に見た。ジョン・スチュアート・ミルが『自由論』(一八五九年)で言及した「社会的暴政」(social tyranny)つまり イ 派の意見や生き方が及ぼす同調圧力とそれによる個性の圧迫への危惧もよく知られている。

ワイマール期(一九一九―一九三三年)のドイツでは、カール・シュミットが、a 議会の公共性は回復不可能な病理に陥っているとの診断を下した。それは、カントが1 ヨウゴした公開性の原理とそれによって導かれる公共の議論がもはや空虚なものとしてしまっているという診断である。「絶対主義君主の秘密政治に対抗する闘争のなかで、近代議会主義の思想、コントロールの要求、公開性への信念が生まれ、人間の自由感情と正義感情が、秘密の決定のかたちで人民の運命を決定づける秘密実務に対抗して勝ちを占めた。……かつての自由主義的自由、とりわけ言論および出版の自由を放棄しようとする人は、今日たしかに多くない。にもかかわらず、ヨーロッパ大陸で、それらの自由が実際の権力の担い手たちにとって実際に危険なものとなりうるところでなお存在する、と信ずる人びとは、もはや多くはないであろう。新聞論説や集会の演説や議会の討議から真の正しい立法と政治が生まれてくるという信念は、いまや微々たるものにすぎない。……議会の活動の事実上の実態において公開性と討論が空虚で実質のない形式になってしまったとき、これまで発展してきた制度としての議会もまた、その精神的な基盤と意味を失ったのである」(『現代議会主義の精神的状況』、一九三三年)。

シュミットは、リベラリズム、すなわち多元的な意見の間で交わされる自由な討論に見切りをつけ、デモクラシーをそれから切り離した。デモクラシーは、そのつど表明される人民の意思に還元された。シュミットの議論には、デモクラシーから多元性(リベラリズムの要素)を取り除こうするときの問題がよく現れている。実際、シュミットは、人民の同質性をデモク

ラシーが機能するための不可欠の条件とみなした。b この極度に先鋭化された「主義主義」(voluntarism)の立場を、のちにハーバーマスは多元的な意見形成を重視する立場から批判することになる。

『世論』(Public Opinion, 1922)の著者としてよく知られているアメリカの知識人、ウォルター・リップマン(一八八九―一九七四)は『幻の公衆』(The Phantom Public, 1925)の著者でもある。彼はまた『公共哲学』(The Public Philosophy, 1955)というタイトルの著作も出版している。一九二〇年代には、社会環境が ロ 化した「大社会」(The Great Society)が到来したとの認識が広く共有された。その主役は、カントのいう「公衆」(the public)ではなく「大衆」(the masses)である。ちなみに、オルテガ・イ・ガセットの『大衆の叛逆』が出版されたのも一九三〇年である。

リップマンは、これらの著作において、正確な情報に通じ、まともな判断を形成できる公衆など現実には存在しないことを強調した。人びとは情報操作に対して脆弱な環境におかれ、「同意の工学」(manufacture of consent)によって正統性を調達されるだけの存在に成り下がっている。彼らが形成する世論なるものも正確な情報にもとづくものではなく、「ステレオタイプ」つまり I ——「人は見えてから定義するのではなく、定義してから見る」——に左右されている。リップマンによれば、統治はそうした当てにならない世論を反映するのではなく、正確な情報を得ることのできる「インサイダー」によって担われなければならない。公共哲学の果たすべき役割は、「人民の衝動」(the popular impulse) ——「こんにちの言い方ならば ハ ビュリズム」——に抗して、基本的な諸権利を保障する立憲主義の体制を 1 ヨウゴすることにあり。リップマンが ハ の自己統治能力に投げかけた疑問はその後多くの知識人に共有されることになる。

リップマンとほぼ同時代に生きたアメリカの哲学者ジョン・デューイ(一八五九―一九五二)は、リップマンが提唱する一部の知的エリート(テクノクラート)による統治に疑問を呈した。「大社会」の複雑な問題には専門知だけで対処することはできず、社会全体の知性を稼働させるデモクラシーが必要である。専門家の得ることのできる知識は正確だとしても限られており、社会に生きる人びとが実際にどのような具体的各諸問題に直面し、それらをどう克服しようとしているかの関心から遠ざかってしまう。「たとえ靴の不具合がどう修繕されるべきかを最も適切に判断するのは熟達した靴職人だとしても、靴がぎ

ついこと、靴のどきどきがついのか、これは履いている本人が一番よく知っている。……専門家の階級は、避けがたく共通の関心から②ソエンになってしまったため、私的な関心と私的な知識をもつ階級になってしまいが、この私的な知識は、社会的な事柄については知識の名に値しない」(「公衆とその諸問題」、一九二七年)。

一部の専門知ではなく、デモクラシーが包摂することのできる「認知的多様性」(cognitive diversity)こそが問題解決の途を探る「社会的探究」(social inquiry)にとって不可欠の資源である。市民はその探究に参加することによって知的な成長を遂げることができるというのがデュイイのとする立場である。「社会がより知性に富む状態であれば、つまり、知識にもっと充たされ、またもっと知性によって導かれた状態であれば……すべての人の知性が作用する水準は引き上げられるだろう。公共の関心事を判断するうえで、この水準の高さは、一人ひとりの知能指数の違いよりもはるかに重要である」。

彼によれば、デモクラシーとはたんに頭数を数えることではなく、解決を要する問題状況の発見、公共の関心事の共有、徹底した公開性のもとの解決策の協働的探究、多様な知の包摂とフィードバックを通じた修正という一連のプロセスを指す。

二 によるフィードバックを重視するデュイイの議論は、現代の熟議デモクラシー論にも豊かな示唆を与えている。

(齋藤純一・谷澤正嗣『公共哲学入門』による)

問一 傍線部(1)、(2)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

15 18

(1) 15

- ① ヨウリヨウが悪く仕事が進まない
- ② ここはヨウサン業が盛んな地域だ
- ③ 彼を次期選挙でヨウリツする予定だ
- ④ 民族ブヨウの衣装

ヨウ  
ゴ

16

- ① 容疑者は警官にゴソウされた
- ② ゴカイがないように補足説明する
- ③ 打開策が見出せず、ゴリ霧中だ
- ④ ライバルとはゴカクの実力だ

(2) 17

- ① 健康長寿のためにソシヨクを心がける
- ② カソ化が進んだ村落
- ③ 地方公共団体がソゼイを徴収する
- ④ ソザイの味を生かした料理

ソ  
エン

18

- ① 会社のエンカクを記した書類を読む
- ② リョウエン祈願のために神社に訪れる
- ③ 患者にエンメイ措置を施す
- ④ 睡眠不足は風邪のエンインになりうる

問二 空所イ～ニに入る語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

19

- |   |      |      |      |             |
|---|------|------|------|-------------|
| ① | イ 少数 | ロ 簡易 | ハ 大衆 | ニ 知の専門性と反証  |
| ② | イ 多党 | ロ 多様 | ハ 公衆 | ニ 公共の関心と探求  |
| ③ | イ 主流 | ロ 標準 | ハ 大衆 | ニ 公共の利害と専門家 |
| ④ | イ 多数 | ロ 複雑 | ハ 大衆 | ニ 知の多様性と異論  |
| ⑤ | イ 小勢 | ロ 多層 | ハ 公衆 | ニ 個人の利害と専門知 |

問三 波線部（a）の具体的な説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

20

- ① 議会における公開性と討議はすでに形骸化しており、人民の意思を政治に反映することは、もはや完全に不可能になったということ。
- ② 議会の活動はその実態において、事実上、公開性と討論が空虚で実質のない形式に陥っており、制度として発展してきた議会も精神的基盤と意味を喪失しているということ。
- ③ 議会の活動は、事実上、絶対主義君主の秘密政治に対抗するという目的を失っており、立法と政治における議会の役割は新聞や集会に代替されてしまったということ。
- ④ 議会における討議が軽んじられ、自由主義的自由、とりわけ新聞論説や集会の演説によってこそ、真の正しい立法と政治が生まれてくるという信念が広まったということ。
- ⑤ 議会の活動は、実態的には公開性と討論が空虚で形式的なものに成り下がっており、絶対主義君主による秘密政治を通じて闘争をもってしか、回復し得ない状況にあるということ。

## 問四

波線部（b）の具体的な説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

21

- ① 議会の公開性と討論が形骸化したいま、そのつど表明される人民の意思に還元されるデモクラシーもまた成立困難になっっているという立場。
- ② 人民による多元的な意見形成が困難になったいま、その時々々に人民が表明する意思や意見こそが、リベリズムを機能させるために最も重要な条件であるという立場。
- ③ 多元的な意見の交換による自由な討論というリベリズムの要素をデモクラシーから切離し、同質的な人民の意思表明に還元することがデモクラシーにとって不可欠な条件であるという立場。
- ④ 多元性を基礎とするリベリズムに裏付けられたデモクラシーを実現するためには、同一性をもつ人民による意思の表明が不可欠な条件であるという立場。
- ⑤ 多元的な意見形成と自由な討論こそがデモクラシーにおいて最も重要な要素であるため、多数の人民がそのつど表明する同一の意見を第一義的なものとする立場。

問五 波線部(c)による主張として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

22

- ① 正確な情報に通じ、まともな判断ができる人々は現実的には存在しないため、専門知をもつ「インサイダー」によるステレオタイプに依拠すべきである。
- ② 「大社会」においては人民による自己統治能力では対処することができないため、専門知に通じた知的エリートが担う熟議デモクラシーが必要である。
- ③ ポピュリズムに抗って、人々の諸権利を保障する立憲主義体制を確立し、「同意の工学」によって正統性を調達するべきである。
- ④ 情報操作に対して脆弱な環境におかれた人々による、ステレオタイプに左右された世論ではなく、一部の知的エリートによって社会の統治を行うべきである。
- ⑤ 世論形成の主体である人々は「同意の工学」によって正統性を調達されるだけの存在に成り下がったため、「人民の衝動」による統治が不可避である。

問六 空所Iに入る最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

23

- ① 疑念と差別
- ② 楽観と抑圧
- ③ うわさと妄信
- ④ 観察と検証
- ⑤ 予断と偏見

問七 本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

24

- ① ジョン・デューイは、ウォルター・リップマンが考えるテクノクラートによる統治という考えを批判し、市民による私的な関心と知識を総動員することでこそ、「社会的探求」が実現し、真のデモクラシーが実現すると主張した。
- ② 「大社会」の複雑な問題に対処するためには、いかに正確な知識をもっているとしても、一部の知的エリートによる専門知だけでは対処ができない。多様な認知をもった人々が社会的に参画し、社会全体の知識を稼働させるようなデモクラシーが重要であるとジョン・デューイは主張した。
- ③ 一九世紀半ば以降の約一世紀は、「公共的なもの」に対する否定的ないしは消極的な評価が主流となった。その背景には不特定多数の人々が行使する水平的な権力作用が、同調圧力や個性の圧迫を生むという批判が存在した。こうした状況を打開するために、ジョン・デューイはさまざまな領域に精通した専門家による議会的公共性の復活が必要だと唱えた。
- ④ ジョン・デューイは、デモクラシーを単純な多数決による数の論理と見なさず、市民による問題状況の発見、公共的関心事の共有、問題解決のための協働、多様な知の包摂によって達成されると主張する。この議論はウォルター・リップマンが強調する、専門家による社会の統治という議論よりも、より示唆的である。
- ⑤ 一部のテクノクラートによる統治を肯定するウォルター・リップマンに対して、ジョン・デューイは専門家の知識は、私的な関心に過ぎず社会的知識とは言い得ないと批判した。デューイは「社会的探求」に参加することによって知的に成長した市民だけが、公共的な関心に基づく熟議デモクラシーを実現できると主張した。



問三 (1)～(5)の文の【 】に入る語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

30

34

(1) 学生時代、民族音楽に【 】した友人は、今、ラジオで自分の音楽番組をもっている。 30

① 沈殿 ② 依拠 ③ 傾倒 ④ 影響 ⑤ 省察

(2) 部下たちに責任を追及された上司は、壁の一点を【 】したまま、無言で座り続けた。 31

- ① 仰視 ② 錯視 ③ 蔑視 ④ 監視 ⑤ 凝視

(3) 何の準備もしていなかった政府は、災害による【 】の事態にあわてふためいている。 32

- ① 不足 ② 不測 ③ 不覚 ④ 不憫 ⑤ 不首尾

(4) 隣人が引越しの手伝いを申し出てくれたが、【 】にお断りした。 33

- ① 節度 ② 親切 ③ 丁重 ④ 安寧 ⑤ 体裁

(5) 本品は値下げ品のため、使用後の返品はご【 】ください。 34

- ① 寛容 ② 許諾 ③ 返上 ④ 容赦 ⑤ 承知

## 問四

次の(1)～(5)の文の空所に入る語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

35

39

(1) あの喫茶店は、店長の目【 】が利いているので、居こちがいい。 35

- ① くばせ ② くぼり ③ ざめ ④ ほし ⑤ ぬき

(2) 悪徳業者が逮捕され、やっと溜飲を【 】ことができた。 36

- ① 流す ② 晴らす ③ 消す ④ 下げる ⑤ 払う

(3) 【 】人を待たずというが、この職を得てからあつという間の四十年であった。 37

- ① 当代 ② 機運 ③ 老朽 ④ 歳月 ⑤ 星霜

(4) 同期入社の子二人が、【 】視耽々と次期社長の座を狙っている。 38

- ① 熟 ② 凄 ③ 鷹 ④ 獅 ⑤ 虎

(5) ゲストの【 】意即妙の発言に、その番組の司会者はしきりに感心していた。 39

- ① 投 ② 盗 ③ 当 ④ 統 ⑤ 討